

## ■2023 年度 外国人留学生の就職活動体験記

### ○ツアン バ フンさん（ベトナム出身）

経営学部 経営学科4年

内定先企業 株式会社ミキハウス

事業内容 ベビー&子供服アパレル事業、出版事業、教育事業、子育て支援事業

#### ① 就職活動を始めたきっかけ

主に2つの理由があります。一つ目は、せっかく日本の大学を卒業するのなら、日本企業に就職すれば、将来自分の専門分野での成長とキャリアの拡大が期待できると感じたからです。また、日本への感謝の気持ちを込めて働くことで、日本とベトナムの関係を一層強化し貢献できることを期待しています。

二つ目は、日本で子供を育てたいからです。その理由は、日本の教育に触れる機会があり、自分の子供にも日本の教育を受けさせたいと考えているからです。

以上の理由により2022年12月頃（3年生秋学期）から就職活動を本格的に開始しました。

#### ② どのように就職活動を行いましたか。

大学での就職活動イベントにできる限り参加し、日本の就職活動のイメージを把握しました。また具体的な就職活動のスケジュールを把握することで、次に行うべき作業が見えて、漠然とした不安を軽減できました。また桃山学院大学のキャリアセンターに行き、履歴書とエントリーシートの添削を受け、面接の練習も行い、さまざまなアドバイスを受けることができました。

#### ③日本とベトナムの就職活動における相違点

同じだと思った点は、日本人も留学生も自分がやりたいことがわからないことです。

違うと思った点については、ベトナムでは大学を卒業してから就職活動を開始することが多いことです。ベトナムにおいては、日本でよく見かける合同企業説明会イベントやマイナビ、リクナビなどの就職活動ツールはほとんど存在せず、エントリーする際には希望する企業に対してメールか対面で履歴書を送ることが一般的です。

それに対して、日本では3年生から就職活動を少しずつ始めます。私は3年生になってから日本での就職活動が始まることに対して、はじめは心の準備ができていないまま何をすれば良いのか全くわかりませんでした。

まず、日本の就職活動の具体的な内容は就職活動のイメージをつくるためのイベントが多く開かれるため、それらに参加することです。さらに、桃山学院大学にはキャリアセンターが存在し、そこで学生たちに対して一対一の就職活動をサポートしてもらいます。そして日本企業に就職するために適性検査、SPI、事業能力検査というテストがあり、エントリーするときにこれらの検査を実施する企業が多いので、繰り返し適性検査を練習します。

③ 就職活動時にやっておいた方が良いこと。

はじめ私はエントリーシート の書き方も理解できませんでした。日本人と同じように試験や面接を受験するので、競争が非常に激しいと感じました。そのため応募する際にできる限り外国人を採用するかどうか確認することが就職活動を効率的に進めるコツだと思います。その他には次のような内容をオススメします。

- ・SPI問題を解けるようにしておくこと。
- ・エントリーや面接で不合格になることは普通の事なので、あまり気にしないこと。
- ・面接をたくさん練習すること。回答を覚えるのではなく、自分の言葉で答えることが大切です。
- ・就職活動の際にはストレスが溜まりやすいので、ちょっとした運動や気分転換が役立ちます。

⑤どのような資格やスキルを持っていますか。

- ・日本語能力試験 N1:

大学の日本語講座を受講しました。

授業の資料を読み、知らない単語を調べました。

日本のニュースを理解できなくても積極的に聞きました。

- ・ビジネス文書検定 3級:

大学のビジネス文書検定講座を受講しました。

- ・普通自動車免許:企業によって車の免許が求められることがあるため、取得しておくことをお勧めします。

2週間の合宿で取得しました。

- ・TOEIC 700点:

大学の授業を受講しました。

⑥入社した後にやりたいこと

私が内定を頂いた会社は、外国籍の方でも働きやすい職場環境で、日本人と同じ待遇を提供してくれます。そして母国と連携するビジネスがあるため、将来のキャリアにもプラスになり、外国籍に関係なく、挑戦の機会が与えられ、自分の志向ややりたいことを実現できる社風です。

入社後には、企業のブランドと製品に関する深い知識を獲得し、日本のおもてなしサービスとハイクオリティの日本製の製品を海外へ、特にベトナムに広めることがやりたいことです。これを達成するために、大学で学んできたマーケティング知識と実践的なスキルを活かしたいと考えています。私は今後も日本で生活したいと考えており、ベトナムに帰国する予定はありません。また、仕事と家庭を両立しながら、日本で子供を育てることを考えています。その理由は、現在、岸和田市にある小学校で日本語とベトナム語の通訳ボランティア活動を行っています。この活動を通じて、日本の教育に触れ、子供たちが大切な価値観やスキルを身につける機会が充実していることを実感しました。自分の子供にも日本の教育を受けさせたいです。

## ■2023 年度 外国人留学生の就職活動体験記

○ケンイチロー コダマヒデキさん（インドネシア出身）

社会学部 社会学科 4 年

内定先企業 カツシロマテックス株式会社

事業内容 パワーショベル等の建設機械の部品生産

### ①就職活動を始めたきっかけ

日本で大学に通っているため、日本で働く経験を積みたいと思い、2023 年 3 月から本格的に就職活動を開始しました。

### ②どのように就職活動を行いましたか。

さまざまな業界、会社の説明会に参加し、自分に合う仕事内容や福利厚生などを聞きました。理想の業界や職種がありましたが、それに執着して挑戦するのではなく、他の業界や職種に挑戦してみることも大事だと思います。自分が知らない仕事は日本にたくさんあります。当初私はメーカーで働くとは思っていませんでしたが、説明会に参加して仕事内容を詳しく聞き、質問することで、その会社の面接では具体的に調べた内容を説明し、自分が会社に貢献できることを明確にアピールして、内定を獲得できました。

### ③日本とインドネシアの就職活動における相違点

日本ではほとんどの大学で 3 年生から就職活動が始まりますが、母国では大学卒業後に行われるため、就職活動の期間が違うと思いました。

授業に参加しながら就職活動をすることは大変ですが、日本の就職活動のスケジュールに沿って進めることをおすすめします。

### ④就職活動時にやっておいた方がよいこと。

頑張って N1 を取得してほしいと思います。失敗を恐れなくて、次から次へと挑戦することが大切です。面接の準備はもちろん必要ですが、出来るだけ面接中は自然に自分の言葉で話せるようになることが大切です。

後輩のみなさんは日本語の授業を受けてください。すごく役に立つと思います。またできれば日本人の友達も作ってください。日本語で日本語を考えられるようになり、自然と日本語を話せるようになります。就職活動中は、日本語学習を後回しにしないで、出来るだけ早めに準備を進めてください。

### ⑤どのような資格やスキルを持っていますか。

・日本語能力試験 N1:

桃山学院大学の日本語科目を履修し、N1 取得の学習を進めました。そして他の専門科目も真面目に参加し、課題提出やゼミ活動を熱心に行っていたことで、日本語の聴解力と理解

力が自然と身につきました。発音も日本人に近い発音ができるようになりました。

・英語

母国でも使っているので、話せます。

⑥入社した後にやりたいこと

私が入社を決めた会社は母国と関係がある事業内容がありましたので、この会社に就職したいと強く思いました。入社後にやってみたいことは、まだ具体的に分かりませんが、数年後は母国に帰国することが決まっているため、それまでに日本の機械部品の生産過程や社内での振る舞いをきちんと身に付けたいです。

## ■2022 年度 外国人留学生の就職活動体験記

○リン レ ラ オンさん（ミャンマー出身）

経済学部 経済学科 4 年

内定先企業 株式会社京都スパーサー

事業内容 建築資材・土木用資材の製造、加工および販売の総合メーカー

### ① 就職活動を始めたきっかけ

私は日本の働き方に興味があったため、日本で就職活動をしようと決めていました。しかし、具体的に就職活動を始めた時期は 4 年生の秋学期からでした。そこからたくさんの企業説明会に参加し、その中から自分に最も合う企業を選び、エントリーしました。また大阪外国人雇用サービスセンターに行き、履歴書の書き方を教えてもらいました。面接の受け答えの練習については本学のキャリアセンターへ行き、アドバイスをもらいました。また空いた時間にインターネットで気になる企業を検索し、ホームページで掲載されている会社概要や取り扱う製品の情報等からエントリーする会社の理解を深める努力を行いました。10 月頃、本学キャリアセンター主催の「留学生対象合同企業説明会」に参加し、私は運よくこの説明会で今の会社と出会い、説明会において担当者の方から楽しくお話を聞かせていただくことができました。入社後は新入社員向けの研修が 6 ヶ月あると教えていただき、新入社員研修がきちんと行われる方が、会社の雰囲気を感じながら学べ、少しずつ会社に慣れていくことができると考え、とても魅力に感じました。その後、まもなくして社内面接に参加し、見事順調に内定をいただくことができました。

### ② 日本とミャンマーの就職活動における相違点

日本で就職活動を進めてみて分かったミャンマーの就職活動と異なる点は、日本は履歴書の提出と面接以外に、適性検査（SPI）があります。この適性検査は日本の多くの企業の採用選考で取り入れられています。企業が人材の採用を行う際、応募者の能力や人物を把握することが目的です。このような検査はミャンマーにはありません。私は数学の問題が苦手だったため、何度も同じ問題集を解いて慣れるように練習をしました。留学生は問われている日本語の意味をよく理解して正解を選べるよう、受検方法や問題形式に慣れることをお勧めします。

### ③ 入社した後にやりたいこと

勤務先が堺市なので、今の生活圏から大きく変化するものはありません。就職活動が終わった後は、とても安心した気持ちになりました。入社する会社は日本国内 15 カ所に事業所があり、海外は中国に事業所があります。私は総合職として勤務し、さまざまな職種を経験できることを、今からとても楽しみにしています。

留学生のみなさんは給料が良い、悪いだけで企業を選ばず、自分の将来が見える企業を選びましょう！自分の頑張りだけでは企業から内定をもらうことはできません。企業研究と周りの人からアドバイスをもらうことが大切だと思います。大学のキャリアセンターや外国人雇用サービスセンターをどんどん利用しましょう！そして、就職活動が始まったら、日本語の学習時間をつくる余裕がないので、1、2 年生の間に日本語能力を向上させた方が良いと思います。

## ■2021 年度 外国人留学生の就職活動体験記

○郭 慧さん（中国出身）

大学院 経営学研究科 博士前期課程 2 年

事業内容 プラスチックやガラスの表面加工・塗装のリーディングカンパニー

### ① 就職活動を始めたきっかけ

大学院に入学した時から、日本で就職活動しようと決めていました。最初は大学院を修了してから帰国し、母国で就職しようと思っていましたが、日本に来て3年が経過して、日本での就職に挑戦したいと思うようになりました。2021年3月頃から会社の説明会等に参加して情報収集し、5月から就職活動が始まりました。

### ② 日本と中国の就職活動における相違点

日本で就職活動を進めてみて中国と異なる点は、日本は面接の回数が多い傾向がありますが、中国は責任者との面接が1回実施されるだけで結果が出ます。また質問内容も異なります。例えば、日本では志望動機を必ず聞かれますが、中国では聞かれることはほとんどありません。そのため中国人留学生はよく準備した方がいいと思います。例えば志望動機に含まれる「どのような会社で働きたいのか」や「入社して何をしたいのか」等について、自分で自分の事を分析することは難しいと感じました。この他にも大変だと思った点は、履歴書を書くことです。私は手書きで書く方が気持ちや誠意が良く伝わると思ったので、何度も書きました。そして、自己PRは各会社に合わせて文面を変えました。次に大変だった点は面接時の笑顔です。説明しようとする笑顔が忘れがちになるので、鏡を見ながら面接の受け答えの練習をしました。それでも面接でうまくできなかった時は、自分のどこに問題があるのかを振り返りました。最初の面接では受け答えがスムーズではなかったのですが、5社を過ぎた頃から表現できるようになりました。

### ③入社した後にやりたいこと

自分の仕事をきちんと進め、周囲に手伝えることがないか、気配りをしたいと思っています。後輩のみなさんは、自信を持って、自分の興味のある会社に諦めないで挑戦してほしいです。会社から結果通知が届かなくても、何度も不採用になっても、前に進んでほしいと強く思います。またこれまでやったことがない事で、どんなに些細なことでも是非チャレンジしてください。いろいろな事を経験すれば、その先に自分が想像する以上の楽しみを見出せると思います。

## ■2021 年度 外国人留学生の就職活動体験記

○グエン ディン ミン チさん (ベトナム出身)

経営学部 経営学科 4年

内定先企業 矢橋林業株式会社

事業内容 注文住宅、分譲住宅の設計・施工・販売／木材の製材および 各種住宅資材の加工・販売／各種鋼材の加工・販売／機械製 品の製造・販売／漆器・漆家具の創作・販売／コンピュータ システムの開発、OA・FA 機器の販売

職種 営業

### ① 就職活動を始めたきっかけ

日本で学んだことを挑戦したかったから、2021年7月末から日本で就職しようと決心しました。私はインターシップや大学のキャリアセンターを利用しないで、自分で興味のある企業を一つずつ探しました。企業調査を行い面接等の準備をしましたが、第一希望と第二希望の企業からの内定は得られませんでした。しかし、幸いなことに現在勤務する企業から内定を頂き、仕事内容や待遇等を検討し、自分自身も納得して入社することができました。後半になると焦る気持ちも出てくるし、興味のある会社の募集が終わっている場合もあります。そのため、就職活動は出来る限り早めに準備した方がいいと思っています。

### ②日本とベトナムの就職活動における相違点

就職活動を進めて分かったベトナムと日本の相違点は、会社の選考基準です。日本の会社はコミュニケーション能力を重視します。私は4年生になった4月時点では日本語能力試験はN2を取得し、普通自動車免許やTOEIC 820点を取得しましたが語学力や資格だけでは、企業から十分な評価を得られないように感じました。私は就職活動を進めていて、自分にコミュニケーション能力があることを企業側に説明し、伝えることがとても難しいと思いました。

### ② 入社した後にやりたいこと

営業をしていて、中国の顧客とのやりとりも増えているため、中国語などの言語を新たに学習したいと思っています。また数年間は日本で営業スキルを身に付け、その後は母国ベトナムで活躍できる機会に恵まれれば良いなと思っています。

学部4年間はあっという間で終わってしまいます。就職活動はできる限り早くから始めることをお勧めします。悔いのないように夢に向かって頑張ってください！